

# ELIEL SAARINEN AND HIS BEAUTIFUL ARCHITECTURE IN FINLAND

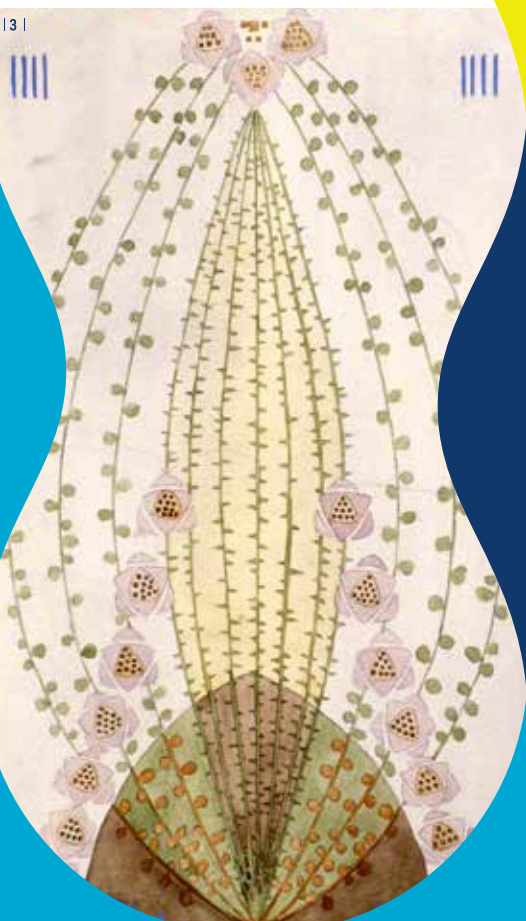


## サーリネンとフィンランドの美しい建築展

2021.  
11.6 sat-  
12.19 sun

開館時間=9:30~17:00 (入場は16:30まで) 休館日=月曜日  
観覧料=一般 800円 (640円)、高・高専・大生 400円 (320円)、小・中生 200円 (160円)  
※( )内は、20名以上の団体割引料金 ※いわき市在住の65歳以上の方、身障者手帳、療育手帳、  
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料 ※いわき市内の小、中、高・専修(高等課程)・高専生は、土曜日と日曜日のみ無料  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催内容の変更や入場制限を行う場合があります。最新の情報は当館HPでご確認ください。  
主催=いわき市立美術館 後援=フィンランド大使館、フィンランドセンター、一般社団法人日本フィンランド協会、一般社団法人日本建築学会、  
公益社団法人日本建築家協会 協力=日本航空、ノルジャン株式会社/株式会社インターオフィス 企画協力=株式会社キュレイターズ

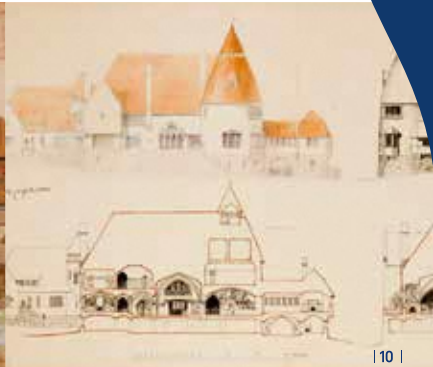
いわき市立美術館 Iwaki City Art Museum





エリエル・サーリネン (1873-1950) は、フィンランドのモダニズムの原点を築いた建築家・デザイナー・都市計画家です。ヘルシンキ工科大学の同級生ゲセリウス、リンドグレンとともに共同建築設計事務所を設立すると、若くして1900年パリ万国博覧会フィンランド館の建築を担当し、国内外に名を轟かせます。折しも国家の独立を求めるフィンランドでは、民族性と独自の文化的価値の再発見を目指す総合的な文化運動「ナショナル・ロマンティズム」が台頭していました。彼らの花崗岩を用いた建築と、民族叙事詩『カレワラ』に由来する装飾モチーフは、フィンランドを象徴する様式として支持されました。彼らのキャリアを通じて重要な役割を担ったのが住宅建築でした。家具やテキスタイル、色彩豊かな室内透視図からは、内装を含めた総合芸術として住宅をデザインしていたことが窺われます。自分たちの事務所兼共同生活の場として郊外の湖畔に建設したヴィトレスクは、その最たる例といえるでしょう。やがて駅や都市のデザインへと活動を広げる中で、サーリネンは同僚たちと袂を分かち、独自のモダニズムを追求し始めます。そして1922年にシカゴ・トリビューン本社ビルの設計競技で二等を獲得すると、翌年アメリカに移住し、モダニズム建築家兼教育者としての後半生を送ることとなりました。

本展では、サーリネンのフィンランド時代に焦点を合わせ、図面、スケッチ、家具のデザインを通してその功績をたどります。椅子から建築、都市計画に至るまで、常に人々の生活に寄り添ったデザインを希求したサーリネンの仕事は、生活様式の急変を余儀なくされた私たちに、今も変わらない価値を提示してくれるでしょう。



17 |

18 |

19 |

10 |



デザインとは、  
ひとまわり大きな枠組みから考えるもの。  
椅子は部屋から、  
部屋は家から、  
家は周辺の環境から、  
その環境は都市計画から考えるのです。

Eliel Saarinen, The City: Its Growth, Its Decay, Its Future, 1943

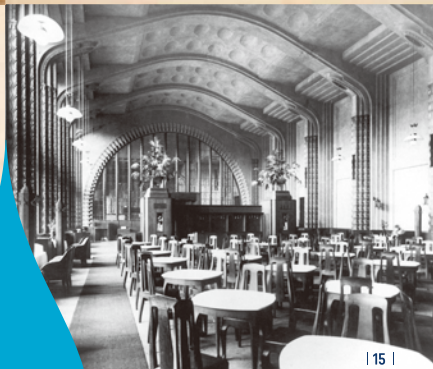
11 |

12 |

13 |

14 |

15 |



〈表面〉1.ポホヨラ保険会社ビルディング 中央せん階段 Photo©Museum of Finnish Architecture/Karina Kurz, 2008 | 2.1900年パリ万国博覧会フィンランド館、ラハティ市立博物館 | 3.エリエル・サーリネン《バラのタペストリーのスケッチ》(部分) 1904年、フィンランド・デザイン・ミュージアム | 4.ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所《ヴィトレスク リンドグレン邸北立面(左)、スタジオの断面が見えるリンドグレン邸南立面(右)》(部分) 1902年、フィンランド建築博物館 | 5.ヴィトレスク サーリネン邸のダイニングルーム Photo: Ilari Järvinen/The Finnish Heritage Agency, 2012 〈裏面〉6.真冬のヴィットゥールプ荘 Photographer: Jari Jetsunen 2009 | 7.ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所《ポホヨラ保険会社ビルディング 立面図 アレクサンティン通り側の正面》1899-1902年、フィンランド建築博物館 | 8.ポホヨラ保険会社ビルディング アレクサンティン通り側の正面入口 Photo©Museum of Finnish Architecture | 9.エリエル・サーリネン《スール＝メリヨキ荘広間の透視図》(部分) 1902年、フィンランド建築博物館 | 10.ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所《スール＝メリヨキ荘立面図と断面図習作》(部分) 制作年不詳、フィンランド建築博物館 | 11.ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所《スール＝メリヨキ荘吊り型ランプの図面》(部分) 1903年、フィンランド建築博物館 | 12.エリエル・サーリネン《椅子「コティ」》1897年、製作：フィッティネン村の家具職人、フィンランド・デザイン・ミュージアム | 13.建築家エリエル・サーリネンの肖像写真 Photo: Daniel Nyblin/The Finnish Heritage Agency, 1897 | 14.ゲセリウス・リンドグレン・サーリネン建築設計事務所《ヘルシンキ中央駅 正面透視図》(部分) 1904-1914年頃、フィンランド建築博物館 | 15.ヘルシンキ中央駅 レストラン Photo©Museum of Finnish Architecture/Eric Sundström | 16.ポホヨラ保険会社ビルディング 柱の彫刻 Photo©Museum of Finnish Architecture/Pekka Kyttinen

【会期中の催し】

いわきアリオス×いわき市立美術館連携事業

映画『コロンバス』上映会+トークセッション (原題『Columbus』、監督=コゴナダ、2017年制作)

- 日時=11月13日 [土] 13:30~16:30 ○会場=いわきアリオス本館4階小劇場
- トーク=五十嵐太郎 (東北大学教授/建築史・建築批評家)、豊田善幸 (NPO法人 中之作プロジェクト/一級建築士)、当館学芸員
- 料金=1,000円 (25歳以下500円) ○全席自由 ○申込方法=9月11日 [土] からアリオスチケットセンターで予約開始 (電話0246-22-5800、受付時間10:00~20:00、毎週火曜定休)

コンサート「フィンランドの風～伝統楽器カンテレの調べ～」

- 日時=11月23日 [火・祝] 11:00~12:00、14:00~15:00の2公演 ○会場=1階常設展示室
- 出演=桑島実穂 (カンテレ)、町永潮音 (カンテレ)、関根優紀子 (カンテレ)
- 参加費=無料 ○定員=各回50名 (事前申込制、先着順) ○申込方法=10月5日 [火] から、電話・Faxで受付

講演会「建築家が夢見た理想郷 サーリネンからモリス、アアルトまで」

- 日時=12月11日 [土] 14:00~15:30 ○会場=3階セミナー室
- 講師=和田菜穂子 (建築史家・博士 (学術)/一般社団法人 東京建築アクセスポイント代表理事)
- 参加費=無料 ○定員=30名 (事前申込制、先着順) ○申込方法=10月5日 [火] から、電話・Faxで受付

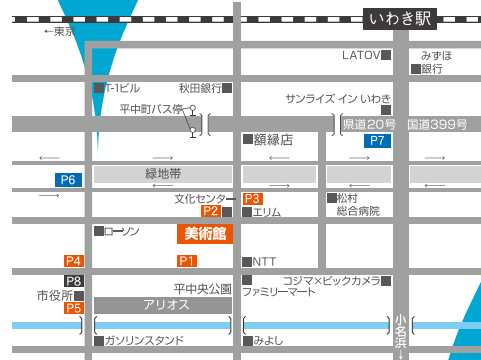
スライドトーク「展覧会の見どころ」

- 日時=11月27日 [土] 14:00~15:00 ○会場=3階セミナー室
- 講師=当館学芸員 ○参加費=無料 ○定員=30名 (事前申込不要、先着順、当日会場にお越しください。)

同時開催 ニューアートシーン・イン・いわき「西成田洋子 ―記憶の森―」

- 会場=1階ロビー/入場無料 ○会期=11月6日 [土] ~12月19日 [日]

〈交通のご案内〉JR常磐線・磐越東線いわき駅南口より徒歩12分 ○高速バス (東京-いわき線、郡山・会津若松-いわき線、福島-いわき線) 平中町バス停より徒歩3分 ○常磐・磐越自動車道いわき中央I.C.より車で15分 ○駐車場は近隣の公共駐車場 P1 P2 をご利用ください。P1 美術館 (44台)、P2 文化センター (69台)、P3 エリム (19台)、P4 童子町 (82台)、P5 梅本 (268台) ○有料駐車場 P6 平新川 (51台)、P7 平十五町目 (131台) は、美術館利用の場合、最大3時間までの駐車券を1階受付にてお渡しいたします。○市役所駐車場 P8 (240台) は、土日祝日は一般開放しています。



# いわき市立美術館

Iwaki City Art Museum

〒970-8026 福島県いわき市平字堂根町4-4  
tel. 0246-25-1111 fax. 0246-25-1115  
<http://www.city.iwaki.lg.jp/artmuseum.html>



16 |

